

## [015] 言語文化論究表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/5458>

---

出版情報：言語文化論究. 15, 2002-02-15. 九州大学大学院言語文化研究院  
バージョン：  
権利関係：

## 退官教官研究業績表

青 山 太 郎 教 授

### I. 著書

1. 「ニコライ・ゴーゴリ」656頁 河出書房新社 1986年9月.

### II. 論文

1. “Conception de l'intelligentsia russe dans les premiers ouvrages de Nicolas Berdiaev” (初期ベルジャーエフの著作におけるロシア・インテリゲンチヤの概念) Université de Paris IIIにて doctorat de 3e cycle に提出. 1977年3月審査終了. (未刊行)
2. 「国家・革命・教会 (ベルジャーエフのロシア・インテリゲンチヤ批判)」『思想』昭和52年2月号 47-66頁. 岩波書店, 1975年.
3. 「『アンナ・カレーニナ』に現れたトルストイの思想」『文学のなかの人間像』157-180頁. 九州大学出版会, 1980年4月.
4. 「メイエルホリトとソヴィエト20年代の戯曲」『現代の文学』225-247頁. 九州大学出版会, 1983年12月.
5. 「ロシア・アヴァンギャルドについて留意すべきこと」『ロシア手帖』第17号, 17-23頁. ロシア手帖の会, 1983年12月.
6. 「ベルジャーエフのナロード観Ⅱ」『言語文化論究』第1号, 31-39頁. 九州大学言語文化部, 1990年3月.
7. 「ベルジャーエフのナロード観Ⅱ」『言語文化論究』第2号, 15-22頁, 1991年1月
8. 「現代ロシア文学の過渡的状況について」『早稲田学報』平成3年12月号 24-28頁. 早稲田大学校友会, 1991年12月.
9. 「ソロヴィヨフとベルジャーエフ — ‘新たな宗教意識’の系譜」『言語文化論究』第3号, 1-9頁, 九州大学言語文化部, 1992年1月.
10. 「西洋文学における変身のテーマ」『言語文化論究』第5号, 47-56頁. 九州大学言語文化部, 1994年3月.
11. 「ロシアの性愛論Ⅰ トルストイの『クロイツェル・ソナタ』」『言語文化論究』第6号, 149-158頁. 九州大学言語文化部, 1995年3月.
12. 「ロシアの性愛論Ⅱ ソロヴィヨフの『愛の意味』」『言語文化論究』第7号, 73-82頁. 九州大学言語文化部, 1996年3月.
13. 「ロシアの性愛論Ⅲ ソロヴィヨフとベルジャーエフ」『言語文化論究』第8号, 215-229頁. 九州大学言語文化部, 1997年3月.

14. 「ロシアの性愛論Ⅳ ローザノフ1」『言語文化論究』第9号, 81-94頁. 九州大学言語文化部, 1998年3月.
15. 「ロシアの性愛論Ⅴ ローザノフ2」『言語文化論究』第10号, 133-145頁. 九州大学言語文化部, 1999年3月.
16. 「ロシアの性愛論Ⅵ ローザノフ3」『言語文化論究』第11号, 77-95頁. 九州大学言語文化部, 2000年3月.
17. 「ロシアの性愛論Ⅶ 去勢派」『言語文化論究』第13号, 121-137頁. 九州大学言語文化部, 2001年3月.
18. 「ロシアの性愛論Ⅷ 去勢派2」『言語文化論究』第14号, 1-17頁. 九州大学言語文化部, 2001年7月.

### Ⅲ. 翻訳

1. リジャ・チュコフスカヤ著「廃屋」(現代ロシア抵抗文集1) 勁草書房, 233頁. 1970年7月.
2. アンドレイ・シニャフスキー著「エッセイ集」(共訳. 現代ロシア抵抗文集2) 勁草書房, 190頁. 1970年12月.
3. アンドレイ・シニャフスキー著「短篇小説集」(現代ロシア抵抗文集5) 勁草書房, 279頁. 1971年9月.
4. ユーリー・アンネンコフ著「同時人の肖像」(全三巻. 下巻未刊) 現代思潮社, 上巻 377頁, 中巻357頁. 1971年1月, 3月.
5. フョードル・ソログープ著「小悪魔」河出書房新社, 1972年12月.
6. ウラジーミル・ナボコフ著「ニコライ・ゴーゴリ」(現代文芸評論叢書) 紀伊国屋書店, 186頁. 1973年2月.
7. ニコライ・ゴーゴリ著「ディカーニカ近郷夜話 第二部」(全集第一巻) 河出書房新社, 178頁. 1977年6月.
8. レオニード・レオーノフ著「ブルイガ. 卑小な人間の最後」(世界文学全集第四十二巻) 学習研究社, 214頁. 1979年8月.
9. ニコライ・ベルジャーエフ著「創造の意味 — 弁人論の試み」(著作集第四巻) 行路社, 558頁. 1990年7月.
10. ユーリー・エラーギン著「暗き天才 メイエルホリト」みすず書房, 453+XX 頁. 1992年5月.
11. アレクサンドル・ジノヴィエフ著「カタストロイカ」晶文社, 298頁. 1992年7月.
12. ニコライ・ベルジャーエフ著「新たな宗教意識と社会性」(著作集第二巻) 行路社 398頁. 1994年11月.

### Ⅳ. 解説 資料

1. 「ナウカ社版ゴオゴリ全集(昭和9年, 全6巻) 復刻版解説」日本図書センター 第6巻巻末 1-16頁. 1996年3月.

2. 「ストラパローラ梗概」『言語文化論究』第12号, 155-166頁. 九州大学言語文化部  
2000年8月.

## 退官教官研究業績表

新 保 弼 彬 教 授

### I. 著書

1. これからのドイツ語（共著）385頁 郁文堂 1980年.
2. アポロン独和辞典（共著）1901頁 同学社 1994年.
3. 新アポロン独和辞典（共著）1891頁 同学社 2000年.
4. ドイツトラベル会話辞典（共著）296頁 郁文堂 2001年.

### II. 論文

1. “Die Unendlichkeit bei Goethe und Novalis” 『かいろす』第5号, 1-12頁, かいろすの会, 1966年.
2. 「若きゲーテのピエティスムス体験前後 —『詩と真実』を中心にして—」『独仏文学研究』第18号, 9-18頁, 九大独仏文学研究会, 1968年.
3. “Die sprachliche Säkularisation des pietistischen Wortschatzes in Goethes *Wilhelm Meister*” 『独仏文学研究』第19号, 39-55頁, 九大独仏文学研究会, 1969年.
4. 「クロップシュトックの国語浄化論 —『メシアス』の3歌章を中心にして—」『独仏文学研究』第20号, 1-15頁, 九大独仏文学研究会, 1970年.
5. 「Bürger の譚詩 *Lenore* の二重構造について — 踏跡の二重形態に関する一試論 —」『独仏文学研究』第21号, 47-60頁, 九大独仏文学研究会, 1971年.
6. 「18世紀の書簡体小説と『若きヴェルテルの悩み』」『かいろす』第9/10号, 1-8頁, かいろすの会, 1972年.
7. 「J. J. Engel の小説論と書簡体小説『ヴェルテル』」『独仏文学研究』第24号, 55-67頁, 九大独仏文学研究会, 1974年.
8. 「18世紀における対話体書簡論の形成 —ゲラートと若きゲーテを中心にして—」『独仏文学研究』第25号, 19-34頁, 九大独仏文学研究会, 1975年.
9. 「『ヴェルテル』成立時代の小説論 — 書簡体小説の構成原理 —」『ゲルマニスティクの諸相』, 39-53頁, 高橋義孝先生還暦記念論集刊行会, 1975年.
10. “Friedrich von Blanckenburgs Rezeption des *Werther—Vom Versuch über den Roman zur Rezension*” 『かいろす』第15号, 81-94頁, かいろすの会, 1977年.
11. “Die innerpietistische Säkularisation des Bekenntnisbriefes”, *Deutsche Vierteljahrsschrift für Literaturwissenschaft und Geistesgeschichte* 第56巻第2号, 198-224頁, 1982年.
12. “Vernunft als Kontrollinstanz gegen Schwärmerei und Aufklärung in Jung-Stillings

- Theobald oder die Schwärmer und Theorie der Geisterkunde*”『ドイツ文学・語学論集』, 35-49頁, 西田越郎先生退官記念論集刊行会, 1985年.
13. “Karl Philipp Moritz’ Versuch einer Synthese von Schwärmerei und Aufklärung – Zur Genese eines neuen Geistersehers”『独仏文学研究』第37号, 103-122頁, 九大独仏文学研究会, 1987年.
  14. “Werther als Schwärmer – Zur Genese eines heterogenischen Geistersehers–”『ゲーテ年鑑』第30巻, 19-33頁, 日本ゲーテ協会, 1988年.
  15. “Über Johann Heinrich Jung-Stillings *Theorie der Geisterkunde*”, *Zeitschrift für Parapsychologie und Grenzgebiete der Psychologie* 第30巻, 243-250頁, フライブルク大学超心理学研究所, 1988年.
  16. “Kerners Parapsychologie im Lichte des Jung-Stillingschen Geisterkunde”『ユスティヌス・ケルナー生誕200年記念国際シンポジウム論集』, 311-320頁, J.ケルナー協会及びフライブルク大学医史学研究所, 1988年.
  17. “Toleranzidee und origenistische Liebesauffassung in Goethes Jugendwerk”『他者との出会い』第11巻, 85-94頁, 国際ドイツ語・ドイツ文学会 (IVG) 発行, 1991年.
  18. “Lessing und die Lehre von der Apokatastasis – Ein Beitrag zur Erhellung origenistischer Elemente in Lessings *Leibniz von den ewigen Strafen*”『九州ドイツ文学』第5号, 1-10頁, 九州大学独文学会, 1991年.
  19. 「世俗化理論の歴史的展開とその諸相(1)」『言語文化論究』No. 5, 37-45頁, 九州大学言語文化部, 1994年.
  20. 「ゲーテの初期書簡集にみられる敬虔主義言語の世俗化について(1) —ゲーテ・テキストデータベース利用に関する一試論—」『独仏文学研究』第44号, 59-77頁, 九大独仏文学研究会, 1994年.
  21. “Geisterkunde und Apokatastasis-Rezeption bei Lavater und Jung-Stilling”, *Das Antlitz Gottes im Antlitz des Menschen* 敬虔主義歴史研究叢書第31巻 (Vandenhoeck & Ruprecht), 102-113頁, J. K. ラーヴァーター生誕250年記念国際シンポジウム論集刊行会, 1994年.
  22. 「ゲーテの初期書簡集にみられる敬虔主義言語の世俗化について(2)」『言語文化論究』No. 6, 81-91頁, 九州大学言語文化部, 1995年.
  23. “Der Terminus *still* beim jungen Goethe – Eine computergestützte Fallstudie zum *Werther-Roman*”『ロゴスとポエジー』, 176-190頁, 伊藤利男先生退官記念『ドイツ文学・語学論集』刊行会, 1995年.
  24. 「ゲーテの初期書簡集にみられる敬虔主義言語の世俗化について(3)」『独仏文学研究』第46号, 29-45頁, 九大独仏文学研究会, 1996年.
  25. “Goethes frühe Briefe und der Briefroman *Werther*. Eine computergestützte Studie zum Wortschatz der Frömmigkeit”『ゲーテ年鑑』第40巻, 69-83頁, 日本ゲーテ協会, 1998年.
  26. 「世俗化理論の歴史的展開とその諸相(2)」『独仏文学研究』第50号, 95-108頁, 九大独仏文学研究会, 2000年.

27. “*Nachricht von meiner Audienz beim Kaiser von Japan – Zur Kaempfer-Rezeption bei Matthias Claudius*”, *Schwellenüberschreitungen Dokumentation* 第1巻, 111-123頁, アジア・ゲルマニスト会議論集 (日本独文学会編), 2000年.
28. 「見霊者ゲーテとその文学(1)」『言語文化論究』No. 13, 43-54頁, 九州大学大学院言語文化研究院, 2001年.
29. “Zur Genese der Schwärmergestalt in Schillers *Geisterseher*”, *SUEVICA. Beiträge zur schwäbischen Literatur- und Geistesgeschichte* 第8巻, 139-156頁, 2001年.
30. 「見霊者ゲーテとその文学(2)」『言語文化論究』No. 14, 31-50頁, 九州大学大学院言語文化研究院, 2001年.
31. “Matthias Claudius und die Aufklärung im Spiegel der Kaempfer-Rezeption”, *Pietismus und Neuzeit 近代プロテスタンティズムの歴史年鑑*第27巻, 53-67頁, ハレ・ヴィッテンベルク大学・敬虔主義・学際研究センター編 (Vandenhoeck & Ruprecht), 2001年.
32. 「見霊者ゲーテとその文学(3)」『言語文化論究』No. 15, 91-103頁, 九州大学大学院言語文化研究院, 2002年.

### III. 書評, 報告, 解説

1. 書評: Johann Henrich Reitz 著 “Historie der Wiedergebohrnen” 『独仏文学研究』第33号, 239-244頁, 九大独仏文学研究会, 1983年.
2. 解説: 「C. F. ゲラート」, 「J. H. フォス」, 「G. A. ビュルガー」, 「F. ブランケンブルク」, 「ミュンヒハウゼン物語」の各項目. 『日本大百科全書』, 小学館, 1986年.
3. 報告: 「モーリッツとユング-シュティリング」『ドイツ文学』第82号, 219-220頁, 日本独文学会シンポジウム報告, 1989年.
4. 報告: 「第17回西日本ドイツ語教授法ゼミナール報告」『西日本ドイツ文学』第5号, 93-101頁, 日本独文学会西日本支部, 1993年.
5. 書評: Gerhard Schwinge 著 “Jung-Stilling als Erbauungsschriftsteller der Erweckung”, *Pietismus und Neuzeit 近代プロテスタンティズムの歴史年鑑*第22巻, 281-286頁, ハレ・ヴィッテンベルク大学・敬虔主義・学際研究センター編 (Vandenhoeck & Ruprecht), 1996年.
6. 書評: 伊藤利男著 「孤児たちの父フランケ — 愛の福祉と教育の原点 —」『西日本ドイツ文学』第13号, 103-106頁, 日本独文学会西日本支部, 2001年.

### IV. 教科書

1. 「シンタクス中心ドイツ語文法」(根本との共著), 110頁, 三修社, 1972年.
2. 「新編基本ドイツ語読本」(渡辺, 正岡との共著), 57頁, 郁文堂, 1974年.
3. 「変革期に立つティーンエイジャー」(ミヒェルとの共編), 64頁, 郁文堂, 1977年.
4. 「コンタクテ」(ミヒェルとの共著), 84頁, 郁文堂, 1979年.
5. 「世界の優等生ニッポン? — シュピーゲルの日本批判」(ミヒェルとの共編), 42頁,

郁文堂，1983年。

6. 「移りゆくアルプシュタット」(ミヒエルとの共著)，40頁，白水社，1985年。
7. 「コンタクテII」(ミヒエルとの共著)，58頁，郁文堂，1985年。
8. 「ドイツ語基礎コース」(ミヒエルとの共編)，124頁，郁文堂，1987年。
9. 「トーアシュトラッセ12景」(ミヒエルとの共著)，78頁，白水社，1988年。
10. 「グリュック：ライン」(注釈・単編)，47頁，郁文堂，1989年。
11. 「リヒター：フリードリヒーあるユダヤ人少年の悲劇」(単編)，49頁，郁文堂，1989年。
12. 「黒は白」(ミヒエルとの共著)，58頁，郁文堂，1990年。